

京都府南部におけるシジュウカラの分布密度とシジュウカラ語の解析

林佐和

目的 シジュウカラの分布密度について、住宅地と山里での違いを把握する。
シジュウカラが2種類以上の鳴き声を使い、コミュニケーションをとっていることを確認する。

方法

調査場所：京都府南部公園2ヶ所

	地点	外周	緑地面積
Site A：住宅街	京都府木津川市	約530m	約11,100m ²
Site B：山里	京都府宇治田原町	約210m	約2,800m ²



調査時期：2023年4月

調査方法：

- ①テリトリーマッピング
鳴き声から分布状況を確認した。
- ②音声解析
鳴き方や状況から鳴き声を分類した。



結果

①テリトリーマッピング

- ◆緑地面積の異なるSite A及びSite Bのいずれにも、シジュウカラが2ペア生息していた。
- ◆右図の白点箇所でさえずり合戦が確認された。
- ◆白点を結んだラインがテリトリーの境界線と考えられる。

②音声解析

- ◆6種類の鳴き声を確認された。
- ◆状況によって異なる鳴き声を発していた。



鳴き声	状況
鳴き声① ツピッ	オスとメスが近接
鳴き声② ジュクジュク	カラスなどが周囲に存在
鳴き声③ フィーフィー	
鳴き声④ ピーツピッ	
鳴き声⑤ ピイピイピイ	カラス等が周囲に存在
鳴き声⑥ ツピッツピッ	さえずり合戦

まとめ

- ◆住宅街と山里の調査対象サイトで、生息場として利用可能な緑地面積に4倍程度の違いがあったが、いずれのサイトでもシジュウカラのつがい同士が鳴き声によりお互いのテリトリーを主張し、すみ分けを行っていた。
- ◆雌雄の距離や他のつがいの存在、天敵の有無などの状況によって、6種類以上の鳴き声を使い分けていることがわかった。
- ◆シジュウカラは複数のパターンの鳴き声により、仲間同士でコミュニケーションをとっていると考えられる。